

偶数月には1回「抱樸館を支える会」会員の方にお届けしています

抱樸館を支える会 会報 2025 12 月 vol.74

2025年12月1日発行:抱樸館を支える会

抱樸館から地域へ 地域から抱樸館へ

——垣根のないつながりを求めて——

抱樸館福岡は、「地域に開かれた場所として、多くの人に知ってもらいたい」——そんな思いで、組合員や地域の方々が気軽に訪れられるよう、日々その扉をひらいています。

一方で、職員や入居者、卒業生が地域の行事や取り組みに参加するなど、“抱樸館から地域へ、地域から抱樸館へ”という行き来も少しずつ広がってきました。

今回の特集では、そうした交流や関わりのようすをお伝えします。



2025年きずな祭



九州産業大学 学生の見学会



歩こう会



地域から講師を招いての
職員研修

contents

特集 抱樸館から地域へ 地域から抱樸館へ

- 抱樸館福岡 見学レポート……………2 p・3 p
- 地域とつながる 広がる抱樸館福岡…4 p・5 p

- 人権研修会・抱樸館だより(抱樸館熊本)…6 p
- みんなの居場所「いこうや」……………7 p
- 抱樸館情報・会報誌アンケート……………8 p

抱樸館福岡



抱樸館福岡は「地域に開かれた場所として、多くの方に知っていただきたい」という思いから見学を随時受け付けています。

2025年7月、九州産業大学 八鍬先生（格差・貧困研究）とゼミ生8名が抱樸館福岡に訪れました。その見学の様子をレポートします。

この日のスケジュール

13:00～	13:40～	14:20～	15:00
昼食	青木館長の話	施設見学	記念撮影・解散

青木館長のお話

生活に困った人の再建を応援する——抱樸館福岡

抱樸館ってどんなところ？

「抱樸館福岡」は、生活に困っている人がやり直し、再出発をするための場所です。名前の「抱樸（ほうぼく）」は、「原木をそのまま抱きしめる」という意味。条件をつけず、その人をそのまま受け入れるという思想が込められています。困窮に至った理由を問わない「無差別平等の原則」にも通じています。



多様な人が集まる場所

抱樸館はもともとホームレス支援施設として始まりましたが、今は様々な人が暮らしています。仕事を失った人、病気や障がいを抱える人、虐待から逃れてきた10代の若者、50代～80代の高齢者…路上生活者は減ったものの、生活に困っている人は減っていません。

「ホーム」と「ハウス」の違い

「ホームレス」とは単に家（ハウス）がない状態ではなく、人とのつながりや家庭（ホーム）を失った状態を指します。抱樸館が大切にしているのは「自立」だけではなく「自律」——自分で決める力です。生活保護や年金を利用していても、自分のことを自分で決められるなら、それは立派な自律だと考えています。

孤立しない自立

認定 NPO 法人抱樸理事長の奥田知志さんは「自立は孤立に終わってはならない」と言います。何でも一人で抱え込むのではなく、人と助け合いながら生きていくことが大切です。頼り合いながら自分で選び、自律的に生きる——それが抱樸館の目指す姿です。

命を支える場として

抱樸館に来た人の半数は「死にたい」と思った経験があるといいます。そんなとき「死んではいけない」と頭ごなしに否定するのではなく、「辛い気持ちを話してくれてありがとう」と受け止めます。そして「ここにはごはんも布団もあるから、しばらく休もう」と伝えます。最善を尽くすから、生きていてほしい——それが抱樸館の願いです。

愛と関わり

マザー・テレサの言葉「愛の反対は憎しみではなく無関心」を胸に、抱樸館は「愛のある施設」でありたいと考えています。挨拶や「ありがとう」という言葉かけで、人の表情は変わっていきます。おいしいごはんでお腹も心も満たす。小さな積み重ねが、再出発の力につながります。

卒業とその先へ

抱樸館を「卒業」する基準は、人によって異なります。おおそ7割の人はアパートで一人暮らしを始め、障がいや高齢のため支援が必要な方は、グループホームや介護施設などに入居されます。大切なのは「次の生活の目処が立つこと」です。

広がる「ホームレス問題」

ホームレス問題とは、路上生活者だけのものではありません。家はあっても孤独に暮らし、孤独死する人も増えています。それもまた「広い意味でのホームレス問題」。抱樸館だけでは解決できませんが、「誰もがホームと呼べる人間関係のなかで暮らしてほしい」——その思いを抱き続けています。

抱樸館は、「困っている人をそのまま受け入れ、共に生きる」ことを大切にしている場所です。あなたの身近な「関わり」も、きっと誰かの再出発を支える力になるでしょう。

施設内を見学

コース

食堂→テラス→相談室→居室→
洗濯室・浴室→理容室→
カフェ & 交流スペース



※間取り図は簡略化しています

中庭

テラス

南向きの開放的な憩いの場



この日の昼食は、抱樸館福岡自慢の特製豚丼、
具たくさんポテトサラダ、かきたま汁。
「家庭的なごはんを提供する」をモットーに
した「お腹と心が満たされる」メニューです。



最後は玄関の
前でパチリ



青木館長のお話は
明るく開放的な食
堂で聞きました。

見学を終えて…

感想文より



「自立」と「自律」について

自分のことは自分で決めることが「自律」であり、「孤立」は「じりつ」ではないという話に納得しました。

「原木をそのまま抱きしめる」あれこれ条件つけないで、そのまま抱きしめるというお話は、まさに抱樸館がされていることだと思いました。

入居者の方とおなじ食事をいただきましたが、とても「栄養バランスが良い」と思いました。グリーンコープが協力しているので、国産の食材を使っているんですね。

館長さんの話で、事前に調べただけでは補えない内容も知ることができました。その中でも抱樸の意味に心を打たれました。

思っていたより施設が明るく、一つの家や寮のような印象を受けました。いただいた昼食も彩りがよく家庭的でした。このような工夫が社会復帰の一助になっているのではないかと考えました。

抱樸館を退居した後の住まい探しは、近くにスーパーやバス停がある利便性が高い場所など、転居するのが難しいので納得して住んでもらえることを心掛けていたとのことでした。卒業生同士が近くに住んでいることなど、退居した後も近くに頼れる人がいることは心強いことだなと思いました。

高齢者だけでなく若い方も入居されているなど幅広い年齢層のかたが入居されていることに驚きました。特に10代の方と高齢者の抱える問題は大きく異なるので対応が大変だろうなと思いました。

地域につながる 広がる 抱樸館福岡

抱樸館福岡が地域の中で歩み始めて15年。
この間、地域の皆さんとの交流を通して、つながりの輪が少しずつ広がってきました。
日々の中で生まれる地域との関わりが、抱樸館をより豊かな場所にしています。
職員が地域のソフトボールチームで汗を流し、毎年の「きずな祭」では多くの笑顔が集う——。
抱樸館は、これからも地域とともに歩み、そのつながりを大切に育んでいきます。

抱樸館から地域へ

15年間続く

「地域清掃活動」

抱樸館福岡では入居者と職員一同で、町内の清掃活動を行っています。開所まもなく「地域の一員として町内の皆様に喜んでいただけることはないか、この町を少しでもきれいにしたい」という思いで始めました。



地域に根ざす歩み

「歩こう会への参加」

抱樸館がある校区で、30年以上続くウォーキングイベント「多々良校区歩こう会」に、抱樸館から職員、入居者、卒業生が参加しました。多々良小学校を発着点とし、多々良橋から名島橋までを折り返す約2時間のコースを、河畔の景色を楽しみながらのんびりと歩きます。バードウォッチングイベントもあり、豪華なお弁当と参加賞を頂き、達成感と笑顔溢れる会となりました。



職員もチームの一員に

「ソフトボールチームへの参加」

抱樸館がある多の津地域町内行事の一環であるナイターソフトボールチームに、町内の方から抱樸館からも参加してほしいとお声かけ頂き、2014年から職員が参加しています。今ではチームの方々にきずな祭に顔を出して頂いたり、ご近所で会うと雑談を交わしたりと親睦を深めることが出来ています。



地域から抱樸館へ

第13回

「きずな祭」

2025年10月25日(土)、今年も「きずな祭」がられました。「抱樸館福岡」「ふくしセンター多ののつりすっこ保育園」を会場に、取引先メーによる試食や販売、吹奏楽や和太鼓、バンド演奏行われました。音楽と笑顔に包まれた、にぎや日となりました。



天気も持ち直して無事開催！多くの方に来ていただ

ハサミと笑顔でつながる

「散髪ボランティア」



2023年6月から散髪ボランティアをしてくださっている「みるこ」さん(サロンネーム)。現役の美容師として仕事をする傍ら、2週間に1度ほど、来館いただいています。

おいしいもの
たくさん!



盛況だったグリーンコープの
メーカーによる試食販売



居場所カフェ
「在(aru)」の
コーヒーと
お菓子の販売

人気の
白玉ぜんざいは
あずきたつぷり
入って100円



抱樸館福岡 厨房特製の「豚の焼肉丼」

企画ブースも
大好評!



ヨーヨー釣り



福岡女学院看護大学生による
健康測定会



ファイバーリサイクルの
衣類販売



多機能つむぐ 作品販売

掘り出し物も
バザー販売



盛りだくさんの
ステージプログラム



ジェネシス・
ナビゲーターバンド

バンド演奏も
盛り上がりました!



博多高等学校 和太鼓部演奏



楽しい
太鼓の体験も♪



マキ&おやじーズバンド



全員参加のゲームタイム「じゃんけん列車」



箱崎清松中学校 吹奏楽部演奏



優勝者には賞状とお菓子のプレゼント

カットに訪れた際、

入居者のみなさんは気さくに
話しかけてくださり、スムーズに作業
ができるように協力してくれます。中
には、手作りの小物をプレゼントして
くださったりする方もいて、その温か
い心遣いに触れるたびに、私自身も
幸せな気持ちになります。



編集メンバーが
参加しました!!

抱樸館では月1回、外部から講師をお呼びして、研修を行っています。
講師に津屋集会所地域活動推進員の犬伏さんを迎え、人権研修会を開催しました。



講師 犬伏 哲也さん

40歳を過ぎてから、本格的に部落問題に取り組み、教師を退職後のライフワークとしている。市立集会所の仕事の傍ら、学校や教育機関で、講演をおこない、啓発活動が続けている。

人権問題を「ともに考える」ということ

差別は、特定の人や地域の問題ではなく、誰の中にも起こりうるもの。「自分は関係ない」「私は差別していない」と思っている、見て見ぬふりをすることや、無関心でいることも、差別を許すことにつながります。人権の問題は、“他人ごと”ではなく、“自分ごと”として考えることが大切なのです。

犬伏さんはまた、「思いやり」という言葉の危うさにも触れました。「思いやりがあればいい」と言ってしまうと、相手の立場や本当の願いを理解しないまま、自分の判断で“助けてあげる”ことになりかねない。真の思いやりとは、相手の尊厳や自立を尊重し、同じ目線で関わること。人間としての誇りを取り戻し、ともに生きることを支える姿勢が求められてい

ると伝えます。出身地や住所を理由にした偏見、結婚や就職での差別、そしてインターネット上に流れる誤った情報——。

差別の根っこには、「自分を優位に見せたい」「相手を下げて安心したい」という心の動きがあります。

だからこそ、人権教育は“思いやりの心を育てる”だけでなく、“差別の仕組みを理解し、行動する力を育てる”ことが目的であると強調されました。

犬伏さんは最後にこう語ります。

「差別をしない」ではなく、「差別を許さない社会をつくる」。その意識を、一人ひとりが持つことが大切です。差別をなくすのは制度ではなく、人と人とのつながり。互いに理解し、支え合う地域のあたたかい関係こそが、差別のない社会を作っていく力になります。

私たちの暮らすこのまちから、「ともに生きる」一歩を踏み出していきたいと思える研修会でした。



抱樸館熊本館長
境 良一さん



抱樸館北九州、福岡、熊本より
「旬」の話題をお届けします。

困ったときは、もっと頼ってください

ここ抱樸館熊本には様々な事情を抱えた方が入所されます。私たちはそういった利用者の自立のために寄り添った支援を心がけ日々携わっています。

入所前は満足な食事をとれなかった方がここでは毎日3度食することができ、また規則正しい生活を通し見る見るうちに元気になられます。利用者と支援員との関係、入所者同士のほどよい関係などで精神的にも落ち着きを取り戻される方が少なくありません。

今伝えたいことは、この社会情勢の中、様々な事情を抱えた方に、私たちの周りには社会資源があること、福祉に限らず、私たちの生活を支える多様な人、物、情報、制度などが利用できるということです。困ったときは躊躇せず頼ってほしいと思います。

私たちはその社会資源の一つとして今後どうあるべきかを日々考えながら前に進んでいきたいと思っています。



みんなの居場所 いこうや

こどももおとなもみんなで遊んで、
学んで、笑顔を増やす場所

「いこうや」は福岡県志免町で「子ども食堂」から発展した、多世代交流の場として賑わう「居場所」です。立ち上げた経緯と現在の様子を代表の高木さんと前代表の松井さんにお聞きしました。

地域の中で気付いた子どもたちの変化

10年以上前、志免町で子どもに関わる活動をしている人たちの間で、「『気になる子どもたち』が増えた」という話になったことが活動のきっかけです。「子どものために何かできないか」と思い、すでに「子ども食堂」を始めていた方に来ていただいて勉強会を続け、見学にも行きました。一年ほど試行錯誤しましたが、「場所もお金もないし、私たちには無理かもしれない…」と躊躇していると、その方が「とにかく始めればいいのよ！そしたら見えてくるから」って(笑)。

それで教会の裏のお部屋を借りて「子ども食堂」を始めました。そうしたら、みるみるうちに子どもたちでいっぱいになりました。これはやっぱり求められていたことなんだ！と思いました。すぐにそこでは手狭になって、民家の母屋をお借りしていましたが、町と交渉して現在ではここ(福岡県志免町総合福祉施設シーメイト)を借りられるようになりました。

みんなの居場所に

子ども食堂として始まりましたが、今では子どもだけでなく、多世代が集まる「みんなの居場所」になりました。赤ちゃんのころから来てくれている子どももいます。子どもたちの成長を見られるのは嬉しいですね。

本当に苦しい子、行きたいけど行けないという子にもつながりたい！なんとかしたいと思いますが、制度の制限がある中で、できる限りの活動をしています。



「本日のメニュー」●まぜごはんのおにぎり
●具だくさんそうめん●厚揚げ旨煮●ゼリー

「ごちそうさまでした〜♪」
「おいしかったです！」
食事を終えた子どもたちが
元気に挨拶して
帰っていきます

大量の調理・配膳をこなす
ボランティアスタッフのみなさん
笑顔いっぱい
楽しんで働いています！



代表 高木 克代さん(右)
前代表 松井 通代さん(左)



おはなしボランティアさんの
楽しい手袋人形劇

「おはなし会」を観ながら食事
ができる和室は、すぐ満室に

私たちの居場所でもある

グリーンコープからも食材をいただいてとても助かっています。何をしようかあれこれ考えて、メニューを決めたりすることが、ウキウキするほど楽しい！ボランティアスタッフのみなさんもここが「楽しくてしかたない！」「生きがい」と言います。

「いこうや」は私たちの居場所でもあるんです。



「いこうや」デイ 【お昼ご飯】 毎月第1土曜日 11時30分～13時
「いこうや」ナイト 【夜ごはん】 毎月第3金曜日 17時～18時30分

対 象：志免町にお住まいの方

参加費：大人100円 小学生50円 未就学児無料

会報誌の感想をお聞かせください

アンケートのご協力をお願いします

12月号
アンケートフォーム

会報誌12月号はいかがでしたでしょうか？

すべての項目にお答えいただく必要はございませんので、お気軽にご協力ください。

アンケートは今後の誌面づくりの参考にさせていただきますために、実施しています。お寄せいただいたご意見や感想の一部を、誌面で紹介させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

2025
8月号の
アンケート
より

会員になってみたものの、衣食住を一定期間提供するだけだと思っていました。しかし、会報を読むにつれ、細やかに一人ひとりに寄り添い支える、奥が深く幅広い活動であることが分かりました。他の通信類と合わせ、グリーンコープさんの真剣な姿勢をひしひしと感じます。(ふくしま 50代)

2025
10月号の
アンケートより

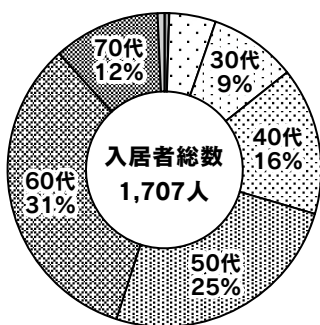
会報を送っていただけると慌ただし日常生活の中、抱樸館のことに思いを巡らすことができます。ありがとうございます。(くまもと 60代)

抱樸館を卒業してからのアフターフォローが気になっていました。一人での生活が困難な方は卒業されてもさまざまな困りごとに出会うと思います。卒業生の繋がりが心の支えになるといいなと思いました。(ふくおか 50代)

大切な活動だと思います。人は1人では厳しい事が沢山あると思うので、直接的・間接的に支え合い最期の時も人として送ってくださっている、NPOおとむらい牧師隊の方々に感謝します。胸が熱くなりました。(ふくおか 60代)

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2025年10月末までの入居者数



2025年10月末現在の入居者

74名(定員81名) 男性67名、女性7名

2025年9～10月の新入居者数・退居者数

新入居者数22名 退居者数17名

(注: 10月末までの入居者数1,707名は、2度、3度入居した人も1名と数えています)

抱樸館熊本・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員 以下の18団体が正会員です。
グリーンコープの各単協(15生協)
グリーンコープ連合会
NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員 2025年10月末の賛助会員は、以下の通り
グリーンコープの共同購入組員 11,400名
グリーンコープの店舗組員・一般の方 145名
企業賛助会員 96社

その他(抱樸館の所在地)

抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
抱樸館下関: 新たに開設を検討中
抱樸館熊本(熊本市中央区) 2018年12月開所

抱樸館を支える会 賛助会員・企業賛助会員 募集中!

グリーンコープの
共同購入組員の方

1300 「抱樸館を支える会」年会費

分割 1口 月250円×12回
(年間3,000円)

毎月の商品代金と一緒に250円引き落としとなります。

1299 「抱樸館を支える会」年会費

一括払い 1口 1,000円

お申し込みいただいた月の商品代金と一緒に、毎年一括で引き落としとなります。

※賛助会員(会費)は毎年自動更新となります。二重のお申込みにご注意ください。

一般の方、グリーンコープの
店舗組員の方1口1,000円の賛助会費を
何口でも申込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口(30,000円)以上でお願いします。お申込みは、「抱樸館を支える会」事務局まで。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号 社会福祉法人グリーンコープ内

☎ 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡

(電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)
〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州

(電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)
〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本

(電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522)
〒860-0811 熊本市中央区本荘